



平成 26 年 11 月 13 日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 3 番 12 号
株 式 会 社 メ デ ィ ネ ッ ト
代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 木 村 佳 司
(コード番号：2370 東証マザーズ)
問 い 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 宮 本 宗
電 話 番 号 045 (478) 0041 (代表)

営業外収益及び特別損失の計上並びに

平成 26 年 9 月期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成 26 年 9 月期（平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）における営業外収益及び特別損失の計上につきまして、その概要を下記のとおりお知らせします。

また、平成 26 年 7 月 31 日に公表しました平成 26 年 9 月期通期の連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の計上について

日本円と米ドルの為替変動により、保有する外貨建ての投資有価証券及び長期貸付金の円換算等による為替差益が発生したことにより、平成 26 年 9 月期において、連結、単体ともに 61 百万円の為替差益を計上することとなりました。

2. 特別損失の計上について

当社が有する貸付金の回収可能性について慎重に検討を行い回収の見込みを再評価した結果、平成 26 年 9 月期において、連結、単体ともに 580 百万円の貸倒引当金繰入額を計上することとなりました。

貸倒引当金計上の経緯

今回の引当金は、当社の取引先である医療法人社団澁志会（以下、澁志会）に対する長期貸付金について計上したものであります。澁志会とは、現在も免疫細胞療法総合支援サービスの提供を中心として、良好な取引関係を継続しており、当社の有する短期債権については回収可能性が十分であると認識しております。

一方、今回引当金を計上した長期貸付金は、平成 24 年 9 月期に澁志会に対して、臨床研究や将来の治療を見据えた臨床体制の強化等に充当することを目的として総額 700 百万円の貸し付けを行ったものであり、当社は、当該臨床研究の進展により澁志会との相乗効果が従来よりも大きく発揮され、業容拡大に資すると期待し、また、長期貸付金の回収可能性は十分であると判断したこと等から、当貸し付けを実行したものであります。

今般、平成 26 年 11 月に「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」及び「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」が施行されることにより、澁志会と当社の取引形態に

ついても業容拡大を踏まえ見直しを図る必要が生じております。そのような状況において、当社が滉志会に対して保有する長期貸付金の回収可能性について慎重に検討を行いました。「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」及び「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」は滉志会が実施する免疫細胞治療の更なる発展を後押しするものと認識しておりますが、一方で、各法律の施行により滉志会が新たな環境へ移行することによるコスト、競合、新たながん治療の進展、その他想定外の問題等の不確定要素が増加するという事も認識しなければなりません。当社は、このような状況を踏まえて、滉志会の中長期経営計画の再評価を適切に行った結果、現時点においては長期貸付金の回収可能性を再評価することとし、平成 28 年に全額期日一括返済するという現契約上での回収の見込みが確実でないと判断したことで会計上、引当金の計上を行ったものです。

3. 平成 26 年 9 月期通期連結業績予想値と実績値との修正（平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）
（単位：百万円、%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	1,800	△1,430	△1,460	△1,060	△12.03
実績値（B）	1,843	△1,407	△1,338	△1,580	△17.94
増減額（B－A）	43	23	122	△520	—
増減率（%）	2.4	—	—	—	—
（ご参考）前年同期実績 （平成 25 年 9 月期）	2,110	△877	△951	△348	△4.32

当社は平成 26 年 4 月 1 日付で、普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成 26 年 9 月期の業績予想及び前年同期実績における 1 株当たり当期純損失については、当該株式分割を考慮した額を記載しております。

【差異の理由】

売上高、営業利益については、前回発表予想から大きな差異はありません。経常利益については、前回発表予想時点からの日本円と米ドルの為替変動により、保有する外貨建ての投資有価証券及び長期貸付金の円換算等による為替差益が発生したこと等から、前回発表予想を 122 百万円上回りました。また、当期純利益については、貸倒引当金繰入額を特別損失に計上したこと等により前回発表予想を 520 百万円下回りました。

なお、個別業績予想については、投資情報としての重要性が大きいと判断されるため期初より記載を省略しております。

以 上